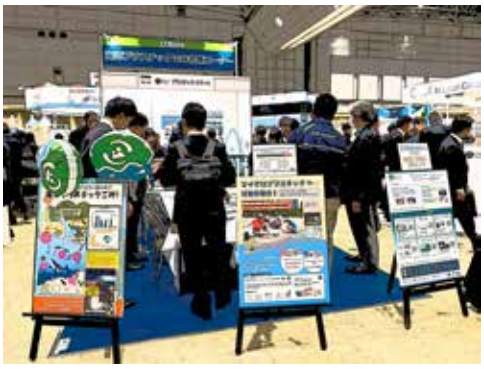
環境活動に関する報告書2020

2019年4月～2020年3月活動報告

環境省からの依頼を受け、環境の総合展示会「エコプロ 2019」で
マイクロプラスチック採取体験を再現（2019 年 12 月）



いろいろな
プラスチックごみ

pal*system | SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

パルシステムは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています

生活協同組合 パルシステム東京

ごあいさつ

生活協同組合 パルシステム東京
専務理事　杉原　学

2019年10月の台風15号・19号では、多くの産地や工場が被害を受けました。組合員から心温まる多くの支援金が寄せられ、一部の産地では生産を開始するまで復興がすすみました。このような台風の原因ともいわれる地球温暖化により、酷暑や気温上昇に拍車がかかり、今後も甚大な被害が心配されます。また、これらの気候変動の問題に加えて、近年大きな注目を集めているのが「プラスチック問題」です。従来から取り組んでいる３R活動（リデュース・リユース・リサイクル）では、2013年度にマイクロプラスチック問題の啓発活動を開始し、2017年度からはパルシステムグループ全体でプラスチック総量削減に積極的に取り組んできました。マイクロプラスチックをはじめとする海ごみ問題は遠い国で起きているのではなく、私たちの生活から排出される身近な問題と捉えるべきであり、化石燃料である石油由来の資源問題として、気候変動の問題と合わせて、今後も重点的に取り組むべきと考えます。

パルシステム連合会の2020年度方針では、引き続きパルシステムグループ一体となり、持続可能な資源循環・環境保全型の社会づくりを推進することを基本視点にしています。エシカル消費の視点に立って協同の力で食品ロスやプラスチックの総量削減、再生可能エネルギーの推進と地球温暖化対策に取り組んでいきます。パルシステム東京でもエネルギー政策に基づき、地球温暖化防止、脱原発運動、再生可能エネルギーへの転換、プラスチック問題に対しても、連合会方針と組合員活動との連携による取り組みを広げていきたいと考えています。さらには、「新型コロナウイルス感染症」という新たな脅威に直面しています。今後、新しい生活様式とともに、環境問題や自然災害においても新たな見直しが迫られるかもしれません。

〈組織概要〉

名称	生活協同組合パルシステム東京
設立	1970年4月1日
理事長	松野　玲子
専務理事	杉原　学
本部事務所	東京都新宿区大久保2-2-6ラクアス東新宿
事業エリア	東京都全域（島しょを除く）
配送センター	17箇所
福祉事業所	14箇所
保育園	２箇所
職員数	1,855名 (正規職員：456名 ／ 専門職員：201名 ／ 定時職員：1.198名)
総事業高	769億1,400万円
組合員数	51万4,531人

（2020年3月末現在）

CONTENTS

1　ごあいさつ・組織概要
2　パルシステム東京環境方針
3　事業と環境活動
4　事業活動における資源の使用と排出物
5　組合員との約束
6　パルシステム東京エネルギー政策
7～10　エネルギー政策の推進
11～12　石けん利用普及と啓発の取り組み
13～14　有害化学物質削減と廃棄物削減に向けた３R活動の推進
15～16　生物多様性保全と森林保全
17～19　事業活動における資源の使用と排出の状況
20～21　パルシステム東京環境キャンペーンの活動一覧
22　リユース・リサイクル商品一覧
23～25　2019年度環境関連広報物一覧
26～30　2019年度環境活動に関する監査所見

パルシステム東京環境方針

理念

パルシステム東京は「『食べもの』『地球環境』『人』を大切にした『社会』をつくります」を基本理念とします。

環境に対しての基本姿勢

パルシステム東京は、理念に沿って組合員への商品・サービスの供給や、消費者の視点から様々な社会的課題の改善に向けた運動を展開しています。
2011年3月11日に発生した東京電力福島第一原子力発電所の事故による放射能汚染の環境や人への影響、地球温暖化や資源の枯渇、生物多様性の減少など環境問題が深刻化する中、パルシステム東京の社会的責任として再生可能エネルギーの拡大、脱原発社会に向けた取り組みの実施、国内環境保全型農業の推進や環境配慮商品の開発と利用普及、事業・サービスに伴う環境負荷低減、省エネ活動を含めた組合員とくらし方の見直し活動をすすめることであると認識し、以下の環境活動に取り組みます。
なおこれらの活動を進めるにあたり環境影響を評価したうえで技術的・経済的に可能な範囲で目的・目標を設定し、定期的に見直すことによって環境汚染の防止や環境マネジメントシステムの継続的改善をはかります。
また環境側面に関わる法律、規制、条例及びその他の受入を決めた要求事項を順守します。

(1) 再生可能エネルギーの拡大に取り組みます。
(2) 脱原発社会実現の為の運動に取り組みます。
(3) CO_2排出総量の削減に取り組みます。
(4) くらし方の見直し運動を組合員参加で広げます。
(5) 資源循環型社会を目指した活動を進めます。
(6) 環境に配慮した商品づくりと普及に取り組みます。
(7) 森林を守る運動を進めます。
(8) 生物多様性の保全に取り組みます。
(9) 日本の食料自給率向上に取り組みます。

以上の活動をすすめるため、全役職員が環境方針を理解し、行動できるよう周知徹底をはかります。
環境方針は、パルシステム東京内外に広く開示します。

１９９９年１０月２８日　制定
２０１３年　４月　１日　改定
２０１７年　６月　１日　改定

生活協同組合パルシステム東京
専務理事　杉原　学

事業と環境活動

環境マネジメントの推進体制

パルシステム東京は、次世代へつなぐ持続可能な社会を作るため、環境方針に沿って目標を設定し、エネルギーや資源を節約し、CO_2や廃棄物の削減に取り組んでいます。
環境活動の評価は専務理事の諮問機関「環境監査委員会」（組合員、有識者、学識経験者で構成）で、年4回実施しています。（環境監査委員の所見は26～30ページ）

環境管理最高責任者
（専務理事）

環境管理責任者
（常務理事）

環境管理責任者補佐
（執行役員）

諮問機関
環境監査委員会
（外部有識者3人、組合員3人）

事務局
（環境推進課）

本部サイト

- 新宿本部サイト
- 江東センターサイト
- 港センターサイト
- 池尻センターサイト
- 足立センターサイト
- 世田谷センターサイト
- 大田センターサイト
- 練馬センターサイト
- 江戸川センターサイト

配送センターサイト
17事業所

- 板橋センターサイト
- 青梅センターサイト
- 八王子センターサイト
- 昭島センターサイト
- 多摩センターサイト
- 東村山センターサイト
- 府中センターサイト
- 三鷹センターサイト
- 狛江センターサイト

福祉事業所サイト
10事業所（単独事業所）

- 東雲陽だまりサイト
- 辰巳ビルサイト
- 辰巳陽だまりサイト
- 八潮ビルサイト
- 中野陽だまりサイト
- 第二中野陽だまりサイト
- 上町陽だまりサイト
- 愛宕陽だまりサイト
- 府中陽だまりサイト
- 足立陽だまりサイト

実行：全部署・全役職員　サイト責任者：事業所長（センター長、施設長）

事業活動における資源の使用と排出物

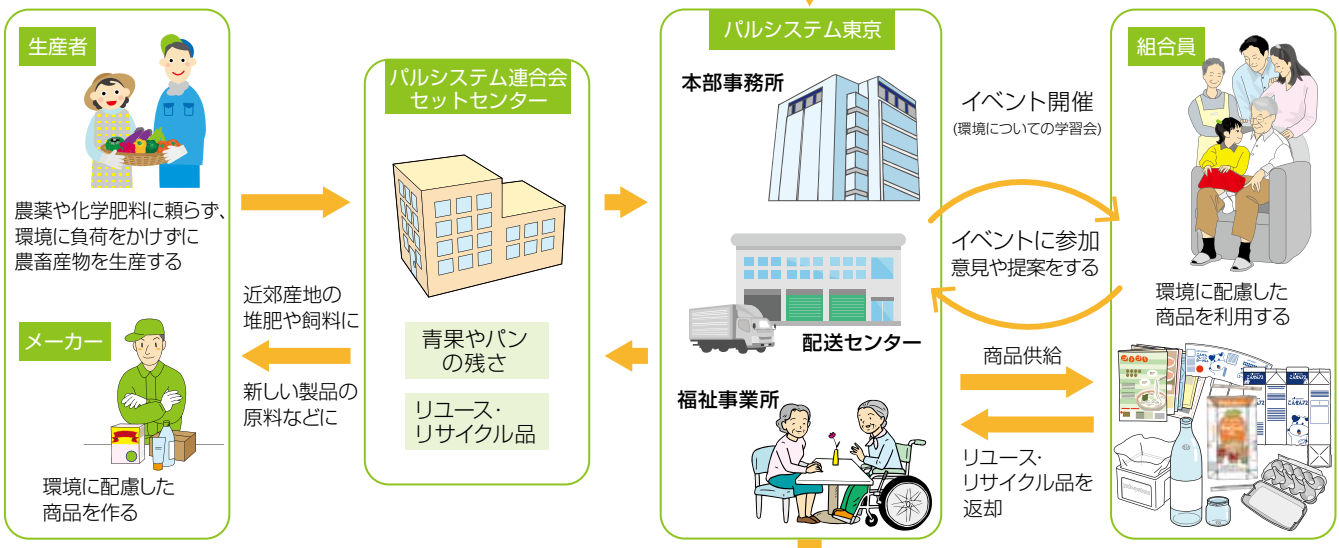
パルシステム東京では、様々な資源を使いながら事業活動を行なっています。
とりわけ、基幹事業の商品供給では、組合員宅へのお届けに配送トラックが不可欠であり、車両燃料対策は急務となっています。また、近年需要が伸びている冷凍商品を安全にお届けするためには、ドライアイスの使用が欠かせません。
またCO_2排出削減のため、事業所の使用電力をパルシステムでんき《FIT電気（再生可能エネルギー）》へ切り替えました。（一部、オーナーや行政の意向で切り替えることができない事業所を除きます。）将来的には、FIT電気（再生可能エネルギー）をエネルギー源としたEV（電気自動車）による商品供給を目指して、研究に着手しています。また、冷凍用蓄冷剤※の導入によりドライアイス使用を減らしていくなど、引き続き省資源型の事業への転換をすすめます。

※2019年度は新たに多摩センターの冷凍庫内に冷凍用蓄冷剤の凍結スペースを設置しました。先に導入をしている単独の冷凍用蓄冷剤凍結庫の約30台分に相当します。（17ページも併せてご覧ください。）

2019年度に使用した資源の量

使った資源

車両燃料（ガソリン換算）115.1万ℓ	ガス（施設）5.1万㎥	ドライアイス 4,680t
電気　681.2万kWh	水　3.0万㎥	OA用紙　165.9t



排出したCO_2

3,602t

車両燃料 2,671t
電気　818t
ガス（施設）113t

廃棄物

一般廃棄物 75.1t	食品残さリサイクル
産業廃棄物 42.4t	5.3t（福祉事業所）

※詳細は17ページ　※上記以外に車両の排気ガス、冷凍冷蔵庫のフロンガス、ドライアイス等を排出しています。

組合員との約束

パルシステム東京では、最高意思決定機関「総代会」での議決に基づいて事業活動を行なっています。
下記は2020年6月に開催された「総代会」で、総代（組合員の代表）により議決された内容（抜粋）です。

第 28 回通常総代会2号議案（事業活動方針）

【重点項目３】「よりよい社会」をつくるために、一人ひとりが学び行動します。

「パルシステム東京エネルギー政策」に基づき、再生可能エネルギーの普及と脱原発運動を推進します。

(1) 脱原発と地球温暖化防止のため、再生可能エネルギーの普及に向けた取り組みと省エネ活動を推進し、パルシステム電力は保有件数14,250件（累計）を目指します。

(2) 安全で持続可能な社会と自然環境を守るため、原発の稼働と核燃料サイクルに反対します。

【継続して取り組む項目】 資源循環型社会を目指した活動をすすめます。

(1) 石けんの良さを広め、使い続けるための啓発活動に取り組みます。

(2) 有害化学物質削減と、３Ｒ（リデュース、リユース、リサイクル）の取り組みを推進し、プラスチック問題等への啓発活動をすすめます。

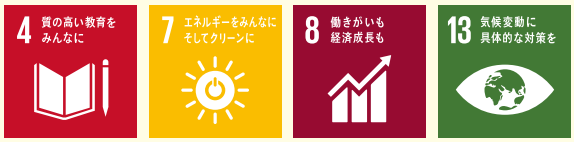
(3) パルシステムグループ全体でプラスチックの総量削減（軽量化、代替え素材など）に向けた取り組みを推進します。

(4) 組合員が参画しやすい生物多様性保全と森林保全の活動に取り組みます。

4つの活動テーマとSDGs

組合員と約束した方針を、以下の4つのテーマに置き換えて環境活動を推進しています。

1．エネルギー政策の推進　地球温暖化対策と脱原発、パルシステムでんきの推進



パルシステムでんきの推進、
省エネ推進、脱原発、
エネルギー政策学習会、
市民電力団体との連携など

2．石けん利用普及と啓発の取り組み

ＰＢ商品の推進、石けん学習会、
出前講座、サンプル配付など

3．有害化学物質削減と３Ｒ活動の推進　プラスチック問題への取り組み

環境測定、3Rの推進、
プラスチックごみ総量削減の取り組み、
有害化学物質学習会、
3R施設見学会など

4．生物多様性保全と森林保全

いなぎめぐみの里山での取り組み、
生き物モニタリングなど

パルシステム東京エネルギー政策

パルシステム東京は「『食べもの』『地球環境』『人』を大切にした『社会』をつくります」を理念として掲げ脱原発と再生可能エネルギーの普及に取り組んでいます。「六ヶ所再処理工場の本格稼動の中止を求める運動」などさまざまな活動をすすめてきました。
２０１１年１２月に策定されたエネルギー政策は、３つの柱で構成されています。持続可能な社会をめざし、地域社会の再構築を支援し、自然の力を最大限に活かす再生可能エネルギーへの転換をすすめています。

Ⅰ．生協自らが消費者として選択する

(1)地球温暖化防止を大きな目標に掲げ、省エネルギーをすすめCO_2と温室効果ガスを削減します。
(2)脱原発の立場で再生可能エネルギーを選択し、将来的には自給率100％をめざします。

Ⅱ．生協自らが事業者として行う

(1)地球温暖化防止をめざし、CO_2を削減し、省資源、省エネルギー型の事業を行います。
(2)生協事業の使用電力を再生可能エネルギーに転換します。
(3)環境に配慮し、再生可能エネルギーを活用した生産や輸送をコンセプトにした新たな商品開発を実現します。
(4)組合員の家庭における再生可能エネルギーの推進やCO_2削減を実現します。
(5)生産から消費、廃棄にいたるエネルギーのプロセスに総合的に関与し、環境負荷を低減する具体的な事業モデルに取り組みます。
(6)地域社会や生産者と連携し、安全で生産コストの安い再生可能エネルギーに効率よく転換する仕組みづくりを支援します。
(7)最新エネルギー情報の収集と調査に努め、事業への有効な導入の検討を行います。

Ⅲ．生協自ら地域・社会に運動をおこす

(1)生産者や社会へ働きかけ再生可能エネルギーによる日本のエネルギー自給率の向上を率先してすすめます。
(2)国のエネルギー政策の転換をめざし、国や自治体に対し情報公開の要求や政策提言を行ない、安全性、経済性の観点からも原子力発電の停止を求めます。
(3)確実かつ有効な情報等をわかりやすく提供し、地域社会や家庭での省エネ活動支援や暮らし方の見直し提案を広げます。

エネルギー政策の推進

地球温暖化対策と脱原発、パルシステムでんきの推進

2013年、パルシステム東京の子会社である㈱うなかみの大地で事業所向けの新電力事業を立ち上げました。2016年の電力小売全面自由化を受けて組合員への供給をスタートさせ、2020年3月末時点ではパルシステムグループ全体で32,513件の組合員が利用しています。私たちは、今後もグループ全体で再生可能エネルギーを推進していきます。

年度	エネルギー政策にまつわる主な経過
2011 年	・エネルギー政策を理事会にて承認
2012 年	・エネルギー政策に基づく脱原発運動検討委員会の設置を決定 ・新電力事業設立のため子会社「㈱うなかみの大地」が新電力の届出、経済産業省が承認
2013 年	・やまがたグリーンパワーのバイオマス発電をメイン電源にして新電力事業を開始し、17 事業所を再生可能エネルギーに転換 FIT 電気（再エネ）率 59.2% ・小水力発電や太陽光発電施設へ組合員交流の開始
2014 年	・㈱うなかみの大地による電力供給 31 事業所、FIT 電気（再エネ）率 79.3%まで拡大
2015 年	・「産直でんき」を商標登録 ・電力供給 36 事業所、FIT 電気（再エネ）率 66.9%
2016 年	・電気供給を1都8県のパルシステムグループ生協組合員へ展開することを目的に「㈱パルシステム電力」（旧社名：㈱エコ・サポート）へ事業を移譲 ・10 月から組合員に電力供給開始（発電産地応援プランA＝従量電灯Bに対応） ・電力供給 56 事業所（グループ）、FIT 電気（再エネ）率 75.8% ・組合員契約数 1,692 世帯（パルシステム東京 983 世帯）
2017 年	・電力メニューに発電産地応援プランCを追加（従量電灯Cに対応） ・大手電力会社と同じ料金に改定 ・電力供給 79 事業所（グループ）、FIT 電気（再エネ）率 79.2% ・組合員契約数 7,195 世帯（パルシステム東京 1,825 世帯）
2018 年	・電力供給 104 事業所（グループ）、FIT 電気（再エネ）率 78.8% ・組合員契約数 20,765 世帯（パルシステム東京 7,854 世帯）
2019 年	・電力供給 105 事業所（グループ）、FIT 電気（再エネ）率 72.3% ・組合員契約数 32,513 世帯（パルシステム東京 12,342 世帯）

2019 年度の新電力事業に関する活動

本格的な推進2年目を迎えて態勢を強化、4月から6月にかけて配送センター職員の意識向上のため、全センターの供給担当者が参加する発電産地研修（300人以上が参加）や、知識向上のための学習会（700人以上が参加）を開催し、一丸となって積極的に臨みました。また、7月には発電産地とパルシステム電力の開発担当者を招いて「発電産地交流会」を開催しました。加えて、市民電力団体と連携した啓発活動として、「『Signs From Nature～気候変動と日本』上映会＆温暖化ミニセミナー」を創設し、複数の委員会企画で実施するなど、様々な取り組みにチャレンジしました。

開催日	企画名	参加人数 / 組合員数
4月～6月	配送センター職員向け「発電産地研修」（訪問先：富岡復興ソーラー、飯舘電力等）	317人 （全プロパー供給担当者、委託協力会社代表者）
5月～6月	職員・委託協力会社向け「新電力各社に関する情報提供学習会」	16センター 延べ715人
5月～6月	太陽光発電＆蓄電池入門講座（三鷹センターによる広報協力）	–
6月～8月	配送センターによるパルシステムでんきの推進	保有 12,342 件 （3月末現在）
7月5日	発電産地（株）十文字チキンカンパニー、（株）森のソーラーによる足立センター視察交流、全管理職会議報告会	55 人 （全管理職会議）
7月6日	パルシステムでんきの発電産地交流会～発電産地の現状と課題～ 講師：(株) 十文字チキンカンパニー　古舘　裕樹氏、(株) 森のソーラー代表取締役　高橋　恭嗣氏	41人（20人）
7月20日～21日	山形おきたま de 田んぼの草取り（生き物調査）とさくらんぼ収穫体験＆小水力発電所見学	24人（22人）
9月21日	「シリーズ『しあわせの経済』を地域から　映画『おだやかな革命』上映＆トーク」に パルシステムでんきブース出展	–
10月27日	「子どもの甲状腺検診」にパルシステムでんきブース出展	–
11月10日	「みたかエコマルシェ」にパルシステムでんきブース出展	–
11月13日	那須野ヶ原小水力発電施設バス見学会 講師：那須野ヶ原土地改良区連合　星野　恵美子氏、ほか	18人（15人）
2020年2月9日	「気候危機」は止められるか?…　地球温暖化 W 講演会 共同開催：認定 NPO 法人太陽光発電所ネットワーク（PV-Net）、パルシステム東京	173人（58人）
3月	本部職員向け「パルシステムでんき説明会」	全6回、43人
通年（3月末迄）	委員会による電力学習会／講師：(株) パルシステム電力・環境推進課職員	1企画（8人）

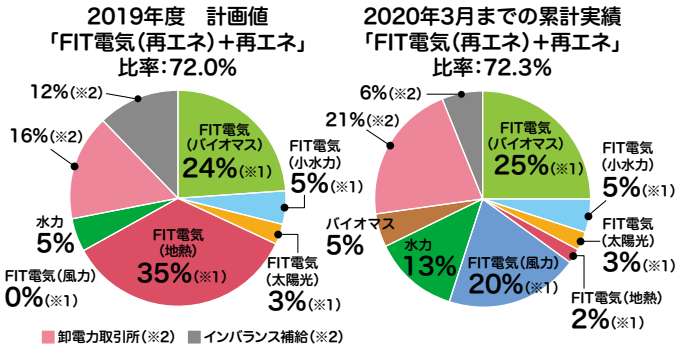
2019 年度　（株）パルシステム電力関連の報告

■供給規模

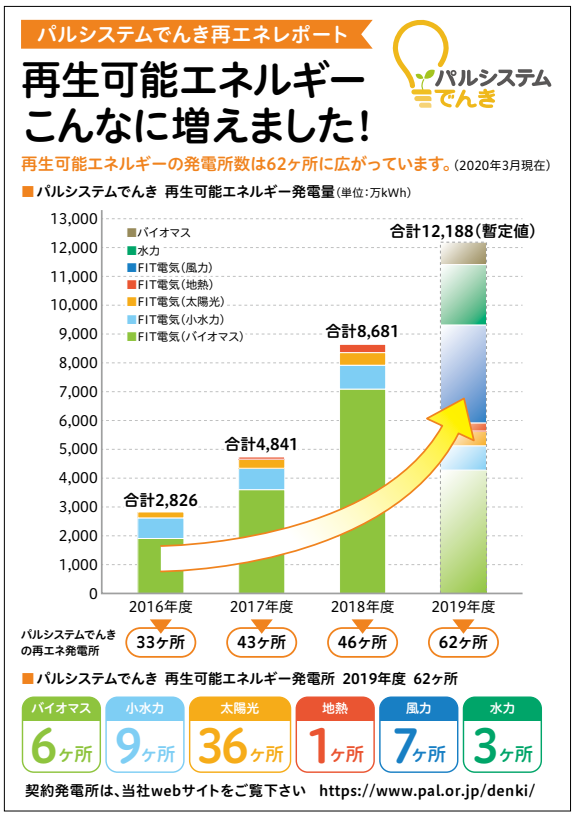
供給事業所数	グループ 105 事業所
組合員世帯	グループ 32,513 世帯（パルシステム東京 12,342 世帯）
総電力供給量	136,079,000kWh（前年比 159%）
FIT 電気（再エネ）＋再エネ率	72.3%（前年比 91.8%）

■取扱量実績　単位 (kWh)

種類別電源量	合計（kWh）
バイオマス発電（FIT 電気）	42,797,698
小水力発電（FIT 電気）	8,444,134
太陽光発電（FIT 電気）	5,106,832
地熱発電（FIT 電気）	2,829,817
風力発電（FIT 電気）	33,974,613
水力発電	20,952,000
バイオマス発電	7,776,000
その他（東京電力など他社融通）	46,624,494
仕入れ電力量合計	168,505,588



※1 この電気を調達する費用の一部は、当社以外のお客さまも含めて電気の利用者が負担する賦課金によって賄われており、CO_2 が排出されないことを始めとする再生可能エネルギーとしての価値を訴求するにあたっては、国の制度上、非化石証書の使用が必要とされています。当社が販売する FIT 電気は、CO_2 排出量について火力発電なども含めた全国平均の電気の CO_2 排出量を持った電気として扱われます。
※2 この電気には、水力、火力、原子力、FIT 電気、再生可能エネルギーなどが含まれます。当社の 2018 年度の CO_2 排出係数は、0.120kg-CO_2/kWh（基礎排出係数）、0.590kg-CO_2/kWh（調整後排出係数）です。



■発電所の状況

2019年度末で「パルシステムでんき」に供給する発電所数は、39組織62箇所まで拡大しました。

市民活動として風力発電に取り組んでいるNPO法人北海道グリーンファンド、一般社団法人秋田未来エネルギー、一般社団法人あきた市民風力発電の3法人が新たにパルシステムでんきの発電産地として仲間入りしました。

市民が中心となり、市民力により建設された風力発電所と交流を深めつつ、再エネを中心としたネットワークを強化し、発電産地をさらに拡大していく予定です。

2019 年度の脱原発に関する活動

原子力に頼らないエネルギー政策への転換を目指し、様々な団体と連携して脱原発運動に取り組みました。原発に反対する生協や団体で構成する「阻止ネット（「六ヶ所再処理工場」に反対し放射能汚染を阻止する全国ネットワーク）」への参画や、代々木公園での大規模イベント「さようなら原発全国集会」へのブース出展、また、職員向けの発行物など、内外への積極的な発信により運動を広めました。

さようなら原発全国集会（9 月 16 日）

開催日	企画名 / 主催者名	参加人数 / 組合員数
5月7日	「原発廃止・エネルギー転換を実現するための改革基本法案の早期審議入りを求める緊急要請」への団体署名	―
5月 11 日 ～5月 13 日	青森県六ヶ所村視察ツアー（阻止ネット）	2 人
7月	「脱原発を実現し、自然エネルギー中心の社会を求める全国署名」 （世田谷・池尻センター独自取り組み）	1,080筆
7月 17 日	青森県六ヶ所村視察ツアー報告会（阻止ネット）	4 人
9月 16 日	9.16 さようなら原発全国集会（「さようなら原発」一千万署名市民の会）	53人（26人）
11 月 25 日	職員向け脱原発ニュース「NO NUKES タイムス」Vol. 7 発行	―
2020 年 3月 20 日	3.20 さようなら原発全国集会（新型コロナウイルス感染症のため中止）	―

■パルシステム東京が提出した意見書

開催日	意見書名	宛先
5月 16 日	「パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略（仮称）（案）」に対する意見書	環境省地球環境局 総務課低炭素社会 推進室
12 月 27 日	「東北電力 (株) 女川原子力発電所 2 号炉の発電用原子炉設置変更許可申請書に関する審査書案に対する科学的・技術的意見」に対する意見書	原子力規制委員会 委員長 更田　豊志殿
2020 年 3月 11 日	「東北電力 (株) 女川原子力発電所 2 号炉の発電用原子炉設置変更許可申請書に関する審査書」決定に対する抗議文	原子力規制委員会 委員長 更田　豊志殿

2019 年度の地球温暖化防止に関する活動

2019年は日本国内だけでも極端な暴風雨及び豪雨が頻発しました。首都圏を直撃し、激甚災害に指定された台風15号や、4,000人が避難生活を余儀なくされた台風19号「ハギビス」は記憶に新しいです。地球温暖化とは、単純に暑い日が増えるということだけでなく、大雨となる日数の増加、水害の発生件数や規模の増加、反対に地域によっては雨が降らなくなる乾燥傾向、雪崩や地すべりの増加、海面水位の上昇、海面水温の上昇や海の酸性化による生態系の変化、蚊の生息域が広がることによる感染症のリスク増加など、それがもたらす現象は数えるときりがありません。私たちが日々のくらしの中でエネルギー（電気・ガス・水道・灯油やガソリン）を使うと、CO_2が排出されます。地球温暖化の進行に伴い世界の平均気温も上昇が止まらない傾向で、早急な対策が必要です。パルシステム東京では、組合員に家庭での省エネなくらしを提案しています。

家庭の省エネ診断

パルシステム東京は「家庭の省エネアドバイザー制度」により、組合員の省エネアドバイザーを養成しています。2018年度まで東京都と連携して活動を行なってきました。2019年度は東京都の同制度終了に伴い、パルシステム東京独自で「家庭の省エネ診断」の新しいツールを構築し、簡単なアンケートに答えるだけで家庭のCO_2排出状況や主要家電の買い替え効果が分かる仕組みを開始しました。受診者からは、冷蔵庫の温度設定やテレビの輝度（画面の明るさ）の変更等、家庭の省エネのポイントが分かって良かったと好評をいただいています。今後も多くの組合員に省エネなくらしを提案していきます。

- 診断９件（2019年度累計）
- 省エネアドバイザー　登録７名（2020年３月時点）

リニューアルした家庭の省エネ診断

省エネ出前講座

組合員を対象に、省エネ出前講座や省エネアドバイスを行なっています。

開催日	企画名 / 主催者名または会場名	参加人数 / 組合員数
7月 20 日	ソーラーカー工作教室＆地球温暖化講座（江東センター）	19 人 （6組 13 人）
7月 30 日	子ども向け地球温暖化講座（生活リフレッシュ委員会）	37 人（34 人）
11 月 10 日	みたかエコマルシェ（協同組合三鷹中央通り商店会、M-マルシェ実行委員会）	約 50 人
11 月 16 日	せたがやエシカル消費展（世田谷区消費生活センター）	約 50 人
12 月 5 日	石けん学習会「年末の大掃除をラクに！自然派大そうじ」にて 省エネリーフレット配付（本部開催）	25 人 （19 組 21 人）
2020 年 1 月 21 日	省エネ出前講座（蒲田委員会）	10 人

ソーラーカー工作教室＆地球温暖化講座（7月20日）

子ども向け地球温暖化講座（7月30日）

石けん利用普及と啓発の取り組み

パルシステム東京では、1970年代に深刻になった湖や河川等の自然環境の汚染を解決しようと、40年以上石けん運動に取り組んできました。石けんは脱脂能力や洗浄力も高く、洗浄剤としてすぐれた能力を持ちながら、すすぎにより水で薄まると界面活性作用を失い、水環境や人体への影響が少ない安全性の高い物質です。パルシステム東京では、今後も継続的に石けんの利用促進に取り組みます。

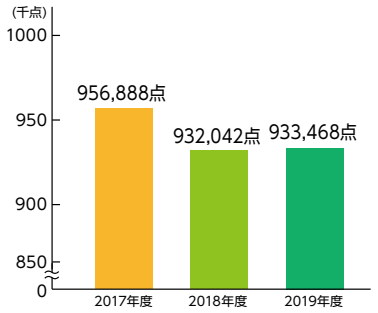
運動商品の供給点数

石けんの供給点数は100.2%と前年度を上回りました。理由としては、ここ数年カタログの掲載スペース減少に伴い、石けん全体の供給点数は減少傾向にあるものの、2020年3月、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、ハンドソープを初めとした衛生用品の需要と供給が急激に増加したためと考えられます。一方で、運動商品として位置付けているプライベート・ブランド商品4点の供給点数は94.5%と前年度を下回っていることが課題となっています。

2019年度は広報の独自施策として、7月2回配付の『エコ&ピースナビゲーター環境キャンペーン特集号』で「me・gu・ru[めぐる]シャンプー/リンス」の「今夏最安値」等を案内したほか、12月2回配付の『同紙12月号』では「自然派洗浄剤で大掃除!」で自然派洗浄剤の効果的な使用方法を掲載し、好評を得ました。

※24、25ページも併せてご覧ください。

石けんの供給実績



パルシステムの石けん商品

2019 年度の石けん利用普及の活動 1

石けん出前講座

組合員の石けん講師が、委員会や職員向けに石けんの良さや上手な使い方を伝える学習会を行なっています。
石けんや有害化学物質削減、水環境をテーマにした委員会企画《30企画、参加者：508人》

石けん出前講座（6 月 19 日）

石けん工場見学会

7月25日、パルシステムのプライベート・ブランド商品である「ハーバルシリーズ」、「やさしいうるおいシリーズ」などを製造している松山油脂(株)の墨田工場を訪問しました。84組166人からの申し込みがあり、関心の高さが窺えました。
《参加者：40人（うち組合員16組37人）》

松山油脂　墨田工場見学会（7 月 25 日）

石けんサンプル配付

委員会活動の一環として、毎年4月に石けんサンプルの注文を受け付け、委員会の企画や地域活動で配付しています。石けんサンプルの総注文数は16,833点でした。政策・環境推進部が作成している小冊子「いのちをつなぐ　石けんノート」は286冊の注文がありました。

いのちをつなぐ　石けんノート

2019 年度の石けん利用普及の活動 2

●5月22日、石けん講師（組合員）のスキルアップ研修として、洗剤・環境科学研究所の長谷川治氏を講師に招き、「今だから知っておきたい！石けん、合成洗剤、化粧品類の成分と表示」を開催しました。実験を交えながらの講義や有害成分の簡易識別法などが書かれた資料が分かりやすいと好評でした。《参加者：27人（うち組合員21人）》

石けん講師スキルアップ研修（5 月 22 日）

●6月8日、パルシステムグループの各担当者から構成される環境委員会が主催となり、「『石けん利用普及』活動報告＆交流会」が開催され、パルシステム東京の組合員理事、石けん講師ら10人が参加しました。各生協からの活動報告やハウスクリーニング業者による実演、若年層や未利用者に対する利用普及についてグループディスカッションが行なわれました。

「石けん利用普及」活動報告＆交流会（6 月 8 日）

●6月29日、パルシステム東京の保育園「ぱる★キッズ府中」のイベント「ほんもの実感！作ってみよう！食べてみよう！こんせんくん家の台所　番外編①梅干・梅シロップ作り体験」で、パルシステムPB商品「me・gu・ru[めぐる]ハンドソープ」を題材にしたペープサートを実施しました。私たちが使っている水は川や海など、自然環境の中で循環しているという「me・gu・ru[めぐる]」シリーズのテーマを意識しました。《参加者：67人（うち組合員12組42人）》

●6月30日、江戸川区で開催された「第8回ハギュット・フェス2019」に江戸川センターの職員が出展し、江戸川区にまつわる水環境のクイズを実施しました。

●7月4日、パルシステム東京のファシリテーター定例会にて、「me・gu・ru[めぐる]ボディソープ」のモニターを実施し、使用後の感想やボディソープを選ぶ基準、お気に入りのパルシステムの石けん等の聞き取りを行ないました。《参加者：10人》

●11月、パルシステムグループの各担当者から構成される環境委員会が作成した石けん推進プログラム「石けん生活」が作成され、グループ内で共有されました。主にPLA（パルシステム・ライフ・アシスタント）養成講座の教材として使われます。

●12月5日、石けん講師（組合員）による石けん学習会「年末の大掃除をラクに！自然派大そうじ（エコな商品の試食つき）」を開催しました。パルシステムの商品を『選ぶ』ことで環境保全につながることを伝えたい、また、石けんを使ったことがない方にも気軽に日々のくらしに取り入れてもらいたいというコンセプトで、実践を交えた講義とパルシステムの環境配慮商品の試食を行ないました。《参加者：26人（うち組合員19組21人）》

せっけん運動ネットワークの取り組み

●2019年5月、シャボン玉フォーラムinやまぐちが「知っちょる？ぶち豊かな山口の自然『やまぐち発！地球の未来のために私たちにできること』」をテーマに開催され、役職員４名が参加しました。

●7月はシャボン玉月間。「せっけんライフはハッピーライフ　～地球がよろこぶ毎日に～」をキャッチコピーにしたポスターを配付し、事業所での掲示や組合員活動の企画で活用しました。2019年度はパルシステム東京組合員の作品が選ばれました。

●行政行動については、生活クラブ・東京とともに東京都庁を訪問し行政施設での石けん使用を呼びかけたほか、清瀬市の市長より首長メッセージをいただきました。

シャボン玉フォーラム in やまぐち（5 月 18 日～19 日）

2019 年度
シャボン玉月間ポスター

■パルシステム東京が提出した意見書

提出日	意見書名	宛先
2020 年 3 月 13 日	化管法対象物質見直し合同会合報告（案）に対する意見	化管法対象物質見直し合同会合報告　パブコメ担当 ○厚生労働省医薬・生活衛生局医薬品審査管理課化学物質安全対策室 ○経済産業省製造産業局化学物質管理課 ○環境省大臣官房環境保健部環境安全課

有害化学物質削減と廃棄物削減に向けた３Ｒ活動の推進
～プラスチック問題への取り組み～

プラスチックごみ、特に直径５mm以下のマイクロプラスチックが環境に与える影響が世界的な問題となっています。海洋生物等による砕片化したプラスチック製品の誤飲や、化粧品類に使用されているマイクロプラスチックが生物の体内へ取り込まれた際の化学物質の毒性に関する影響も懸念されています。パルシステム東京は、「リデュース（発生抑制）」＝「プラスチック廃棄総量削減取り組み」とし、リデュース対応を行なった商品の利用向上に取り組みました。

2019 年度の有害化学物質削減・廃棄物削減の活動

●6月1日、「お台場の砂浜でマイクロプラスチック採取体験」
（説明：パルシステム東京職員、パルシステム連合会職員）《参加者：26人（うち組合員10組20人）》

●6月～7月、「職員向け廃棄物管理学習会（事業所長、内部環境監査員）」
（講師：パルシステム東京環境推進課職員、パルシステム連合会環境活動推進室職員）《参加者：92人》

●7月24日、「第24回東京23区とことん討論会」
（主催：第24回東京23区とことん討論会実行委員会）《参加者：役職員6人》

●8月8日、「宿題バッチリ！足立配送センター＆杉戸リサイクルセンター親子バス見学会」
組合員から回収されたリサイクル品の処理・運搬工程などを学びました。また、足立センターの冷凍庫体験やセットセンターでのドライ商品やカタログをセットする施設も見学することができ、親子で楽しみながら学べる企画となりました。《参加者：24人（うち組合員9組21人）》

●10月、江戸川・墨田エリア協議会で「葛西海浜公園でマイクロプラスチック採取体験モニター企画」の提案（2020年度実施予定）

●12月、エコプロ2019　環境省「海洋プラスチックごみ対策コーナー」にて、「マイクロプラスチック採取体験」のブース出展協力。環境省プラスチック・スマートキャンペーンからの要請を受け、パルシステム東京の「マイクロプラスチック採取体験」を再現しました。湘南の海岸より借りてきた砂から参加者自身がプラスチックを採取できるよう、体験学習の場を提供し、パルシステム東京及び連合会職員から海ごみ問題や3Rの大切さなどについて説明を行ないました。

●12月、江戸川センターまつりにブース出展「3Rの取り組みのPR活動」

●6月と12月、「組合員による二酸化窒素（NO_2）測定」
大気汚染の測定を通して身近な環境問題を知り、改善していくことを目的としています。
・6月：配付カプセル数674、回収数638、有効数533、回収率94.7%
・12月：配付カプセル数608、回収数565、有効数450、回収率92.9%

●2020年２月、委員会主催のプラスチック問題をテーマにした学習会に、講師として役職員３人を派遣

配送センター＆リサイクルセンター見学会（８月８日）

エコプロ 2019 への出展協力（12 月５日～７日）

パルシステムグループの「プラスチック廃棄総量削減取り組み」※

●5月、プラスチック廃棄総量削減の推進に向け、パルシステムと取引先各社による「プラスチック削減プロジェクト」が発足、10月には同プロジェクトで「海岸クリーンアップ」を実施し、海の現場からプラスチックごみ問題を考える機会としました。国内外の動向や、資材情報、ノウハウの共有を図るとともに、各種広報や学習会などを通じ、プラスチック削減取り組みへの理解と協力を呼びかけています。容器簡素化、環境負荷の少ない材質への切り替え、回収強化等の具体的な取り組みをパルシステムグループ全体で進めます。

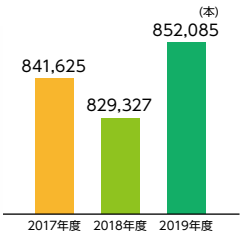
●2019年度のプラスチック排出量は3,461.0ｔ（3ヵ年計画の基準年比102.6%、+88.8ｔ）となり、目標は残念ながら未達となりました。取引先の協力のもと３ヵ年で実現した軽量化（薄肉化、小型化、トレーや留め具不使用、紙トレー化）、環境負荷の低い材質への切り替えによる削減は120商品　2商品群　72.5t（見込値）となり、組合員の協力により2品目においてリサイクル回収率も改善しました。目標達成には至りませんでしたが、３ヵ年の事業伸長およびプラスチック包材の使用の多い商品群の利用伸長を踏まえると、一定の成果を挙げたと評価できます。

※「プラスチック廃棄総量削減取り組み」…2017年度～2019年度の３ヶ年の取り組み。プラスチックを使用している容器包材について、軽量化（優先）、環境負荷の少ない材質への切り替え、リサイクル回収率の向上などを通して、事業伸長を考慮した排出総量を2016年度の水準に抑えることを目指しました。プラスチック排出総量＝（青果除く食品包材＋生活消耗品のPB商品のプラ総量）－（環境負荷の少ない材質へ切り替えた量＋回収量）

2019 年度の3R（リデュース・リユース・リサイクル）に関する活動

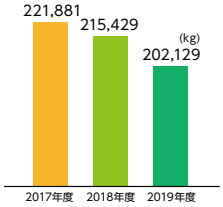
資源循環型社会を実現するために、商品作りや組合員参加を通して、3R（リデュース（発生抑制）、リユース（再利用）、リサイクル（再生利用））の優先順位で取り組みを進めています。パルシステムでは限りある資源を大切に使い、100%国内でマテリアルリサイクルをしています。2019年度は6月から、パルシステムグループ全体でのRRキャンペーン（リユースびん返却時のポイント付与）や、パルシステム東京独自の追加広報に取り組みました。引き続き、回収率向上に向けた取り組みを進めます。

リユースびん回収量

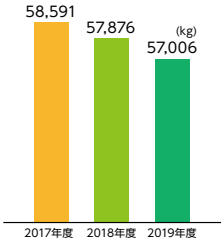


パルシステム全体で6月1回～11月4回に「リユースびん」を戻してポイントをためよう！企画を実施し「環境キャンペーンチラシ」「センターチラシ」「利用明細」などで広報しました。

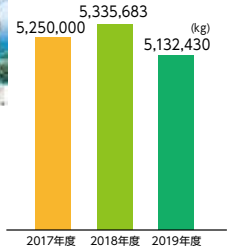
紙（牛乳）パックの回収量



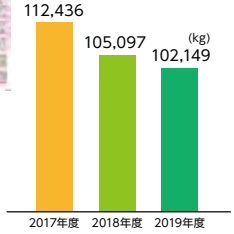
ＡＢパック・ヨーグルトカップの回収量



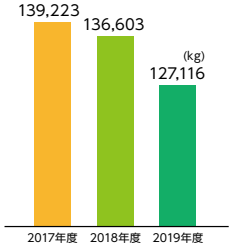
商品カタログの回収量



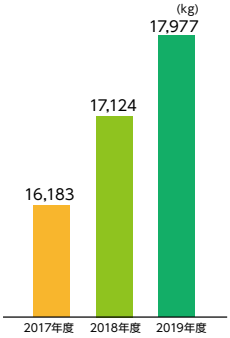
注文用紙の回収量



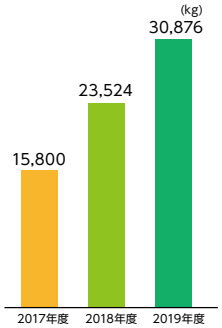
資源プラスチックの回収量



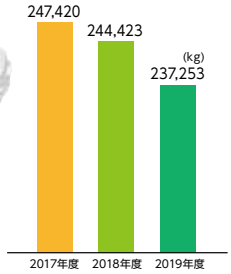
米袋の回収量



お料理セットトレーの回収量



たまごパックの回収量



回収率アップに向けた取り組み

配送センターが年度ごとに設定する環境目標について、6センターが「リサイクル資材の回収率アップ」を掲げ、チラシの配付や組合員への声かけ活動などに取り組みました。また、パルシステム東京独自の広報媒体、「エコ＆ピースナビゲーター」や「環境キャンペーンチラシ」などで認知度の向上に努めました。その結果、リユース・リサイクル資材9品目のうち、3品目が前年度の回収量を上回りました。6品目（ＡＢパック・ヨーグルトカップ、紙パック、たまごパック、資源プラスチック、商品カタログ、注文用紙）はグループ平均より高い回収率となりましたが、回収率は前年を下回りました。対象品目がパルシステムに返却されることで、確実に国内での再生品化（マテリアルリサイクル）がなされます。引き続き、組合員への声かけ活動や広報媒体を有効活用し、回収率の向上に努めます。

生物多様性保全と森林保全 ～里山を体験しよう～

生物多様性保全は、地球温暖化問題、有害化学物質の削減などさまざまな環境課題と密接に関係しています。2019年度は前年度に引き続き、中央大学・東京大学・パルシステム東京協働プロジェクト「生き物モニタリング調査」をはじめ、「いなぎめぐみの里山」における健康づくり企画を行ない、新たな取り組みとしてはWWFジャパンと連携した生物多様性保全学習会など、年間で8企画を開催しました。また、パルシステム東京の直営保育園「ぱる★キッズ府中（2014年3月開園）」「ぱる★キッズ足立（2018年4月開園）」では、開園以来、「木育」を保育理念の一つに掲げ、室内の木質化や近隣の公園へのお散歩活動などを通じて、子どもたちが木や自然とのつながりを感じられるような保育を日々実践しています。

2019年度の生物多様性保全の活動

■中央大学・東京大学・パルシステム東京協働プロジェクト「生き物モニタリング調査」

都内各所で組合員の調査員が撮影した「チョウ」の撮影データから、都内の生物多様性の現状や地球温暖化の影響を調べる市民科学のプロジェクトです。身近な地域で、誰でも参加できる生物多様性保全活動として2009年からスタートしましたが、大学側の体制変更に伴い2019年度から活動を縮小し、2021年3月に終了する予定です。

開催日	企画名	参加人数 / 組合員数
7月30日	宿題バッチリ！夏休み子ども生きモニ（東京大学構内）	23人（9組19人）
8月	「生き物モニタリング調査」の講師による「いなぎめぐみの里山」視察、意見交換	―
11月4日	「いなぎめぐみの里山」で、生き物モニタリング ～自然を歩いて見て感じよう！～	28人（9組22人）

※7月と11月の取り組みでは、調査員と一般参加者が保全生態学の専門家から解説を受けました。

宿題バッチリ！夏休み子ども生きモニ（7月30日）

「いなぎめぐみの里山」で生きモニ（11月4日）

調査員の登録者はのべ1,043人、報告件数は43,320件（2009年度～2019年度累計）です。
2019年度は新規登録を行ないませんでしたが、登録調査員からは1,875件の報告がありました。

■WWFジャパンとの連携企画

10月19日、WWFジャパンより講師を招き、生物多様性保全学習会「日本の生物多様性プロジェクト“水田・水路の生物多様性と農業の共生”～写真で見る地球の危機！変わりゆく自然環境を考えよう～」を開催しました。世界で起きている環境問題や日本の水田・水路の生態系の現状、WWFジャパンが展開している絶滅の危機にある田んぼの魚たちと自然を守るプロジェクトが紹介され、試食を楽しみながら人と生きものが共存していくための問題点を話し合うワークショップを行ないました。

《参加者：26人（うち組合員15人）》

生物多様性保全学習会（10月19日）

2019年度の森林保全の活動

■「いなぎめぐみの里山」における森林保全の取り組み

2017年12月以降、「コープ共済連健康づくり支援」の助成金を活用した健康づくり・森林保全活動を不定期で行なっています。認定NPO法人「JUON（樹恩）NETWORK」の協力を得て、2019年度中で竹林保全の取り組みを5回開催しました。都内にある自然豊かな里山の保全と活用をすすめ、環境と農業、自然を知る機会の拡充をはかりました。

【いなぎめぐみの里山】

京王相模原線稲城駅から徒歩15分という好立地にある、組合員の里山です。東京都内に「農と緑の創生」をキーワードに、地域社会との交流も含めパルシステム東京の組合員が参加できる一定規模の「場（農と緑の里山体験ゾーン）」として、2004年に開設しました。

開催日	企画名	参加人数 / 組合員数
4月 29 日	竹の伐採と道づくり	29人（8組24人）
6月 30 日	竹の伐採と七夕飾りづくり	22人（6組16人）
10 月 20 日	竹の伐採と道づくり	19人（5組11人）
12 月 21 日	竹の伐採とミニ門松づくり	21人（7組17人）
2020 年 2 月 11 日	竹の伐採と道づくり	14人（4組10人）

七夕飾りづくり（6月 30 日）

ミニ門松づくり（12 月 21 日）

自分で伐採した竹を使って道づくり（4月、10月、2月）

■「ぱる★キッズ府中」「ぱる★キッズ足立」の森林保全の取り組み

低年齢の子どもたちが、木材の故郷でもある森や山に思いをはせられるきっかけ作りとして「ぱる★キッズ」の保育に取り入れているのが「自然遊び」。日々のお散歩や戸外遊びを通じて身近な自然に親しむことで、「生き物」や「命」を大切に思う心を育んでいます。2019 年度は、活動の中での「自然遊び」に加え、「ぱる★キッズ探検隊～こんせんくんと冒険にでかけよう！～」と題し、外部講師を招いた「行事」として、両園が同じ目線でじっくり自然と関われる時間を作り、子どもたちと一緒に楽しめる企画を年間通して実施しました。

親子参加型企画では、「植物の茎を使ったシャボン玉遊び」や「クローバーの葉の裏側にいるテントウムシの幼虫探し」等も行ない、保護者への理解も深まったと感じています。このように「木育」を「木」だけでなく、虫や草花・空の移ろい等の自然全体と捉え、職員自身が日常の保育に取り入れる中で、活動の幅と深みが出てきました。

また、この間の運営理念に基づいた一貫した取り組みと、具体的な「木育」の実践内容が評価され、2018 年 6 月にウッドスタート宣言認定を受けている「ぱる★キッズ府中」が代表して、都庁開催の「森のめぐみの保育環境セミナー」で講演し、保護者をはじめ、保育園・幼稚園の運営に携わる方がたからも共感を得る等、「ぱる★キッズ」の取り組みを社会的にも認めていただく機会にもなりました。

多摩産材を使用したぱる★キッズ足立の内装

森のめぐみの保育環境セミナー 2019（9 月 23 日）

ぱる★キッズ探検隊「ひらひら紅葉　かさこそ落ち葉」（12 月 10 日）

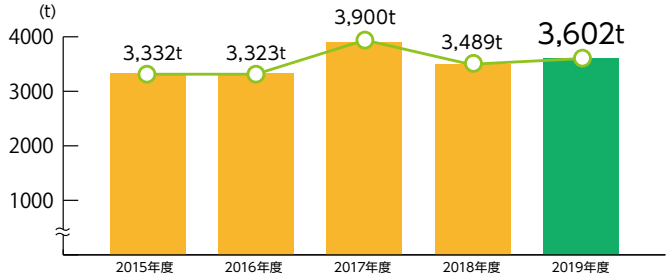
事業活動における資源の使用と排出の状況

事業活動で排出するCO_2排出量の削減に取り組みます。

2019年度のCO_2排出量は、3,602ｔで前年度より113ｔ上回りました。電気使用量の増加と㈱パルシステム電力の基礎排出係数※が上がったことが大きく影響しています。電気使用量増加の原因としては夏場の5・8・9月と高温が続き、秋の10月上旬まで夏がずれ込み、空調機器や冷設機器の稼働に影響したと考えられます。

※温室効果ガス排出量を算定する際に用いる係数

CO_2排出量の推移（2015年度～2019年度）



㈱パルシステム電力基礎排出係数

2018年度　0.000105ｔ-CO_2/kWh（2017年度実績）
2019年度　0.000120ｔ-CO_2/kWh（2018年度実績）

参考＜東京電力エナジーパートナー㈱＞

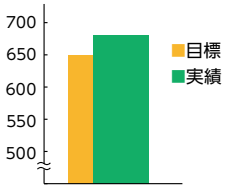
2018年度　0.000475ｔ-CO_2/kWh（2017年度実績）
2019年度　0.000468ｔ-CO_2/kWh（2018年度実績）

※電気の排出係数は環境省・経済産業省公表より（株）パルシステム電力の基礎排出係数を用いています。
※車両燃料と施設ガスの排出係数は前年度と同じ係数です。

年度	排出量	総事業高	排出量/総事業高１億円当たり
2015年度	3,332ｔ	726億	4.59ｔ
2016年度	3,323ｔ	732億	4.54ｔ
2017年度	3,900ｔ	742億	5.26ｔ
2018年度	3,489ｔ	752億	4.64ｔ
2019年度	3,602ｔ	769億	4.68ｔ

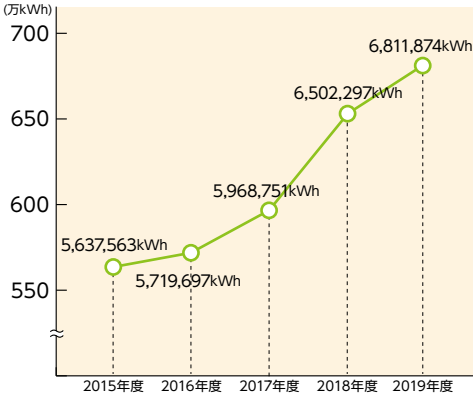
電気の使用量

●2019年度
目標 6,502,297kWh
実績 6,811,874kWh



CO_2換算排出量 818t
排出係数 0.000120t

●電気使用量の推移



配送センターの太陽光発電状況／年　【自家発電用】

昭島センター　太陽光パネル

大田センター …… 2,277kWh
多摩センター …… 3,120kWh
江戸川センター …… 3,927kWh
足立センター …… 111,601kWh
昭島センター ……25,257kWh
（11月から稼働）
※ 2020 年度は八王子センターに設置予定です。

■東京都の事業所向け省エネ診断を受けました。（足立･青梅･板橋センター）これで全 17 センターが終了しました。設備面の改善提案が主となっているので関連部署と連携し改善に取り組みます。

■冷凍用蓄冷剤の導入による増加
2020年２月多摩センターに導入。今までの単独凍結庫ではなく従来の冷凍庫に凍結スペースを確保しました。（単独凍結庫の約30台分）
電気使用量は増加しましたが、CO_2排出係数の低い「パルシステムでんき」を使用しています。

多摩センター　冷凍用蓄冷剤凍結庫

■LED照明の更新
青梅・八王子・狛江センター、上町陽だまりの照明をLEDに更新しました。2021年には、すべての事業所を全面LED化する予定です。

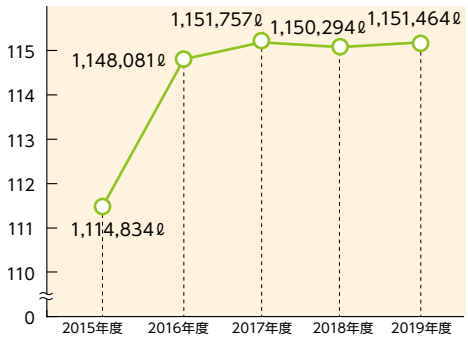
八王子センター事務所内

車両燃料の使用量（ガソリン換算）

●2019年度
前年 1,150,294ℓ
実績 1,151,464ℓ

CO_2換算排出量2,671t
ガソリン換算係数：0.00232t

●車両燃料使用量の推移



■燃料別の使用量(ℓ)

	種別	2017年度	2018年度	2019年度
車両燃料	ガソリン	585,649	642,283	724,033
	軽油	104,355	134,606	151,494
	LPG	598,815	472,102	349,390
	CNG	9,041	3,795	1,492

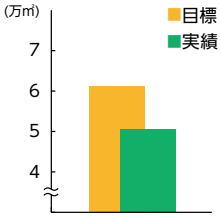
■パルシステム東京のCO_2排出量の約7割は車両燃料からです。車両燃料対策としてEV（電気自動車）研究会を立ち上げ、環境省や自動車メーカーと共にEVトラックの導入をすすめています。

EVの軽自動車充電用コンセント＆計量器

■EVの軽自動車（軽バン）を江東・足立・昭島センターに各1台導入しました。導入済みの多摩（2台）・板橋（1台）を含め、計6台が稼働しています。

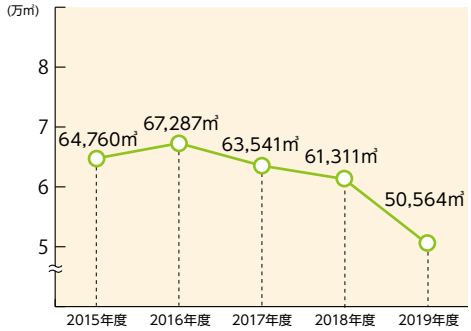
ガス（施設）の使用量（都市ガス換算）

●2019年度
目標 61,311㎥
実績 50,564㎥



CO_2換算排出量 113t
都市ガス換算係数：0.00224t

●ガス（施設）使用量の推移



■主な使用は大田・東村山センターのガスヒートポンプエアコン（ガスを使用した空調）と福祉事業所の入浴サービスです。

・使用量の多いガスヒートポンプエアコンですが、東村山センターは2019年11月に電気モータヒートポンプエアコン（「パルシステムでんき」を使用した空調）に切替えました。大田センターは大規模修繕時に切り替える予定です。

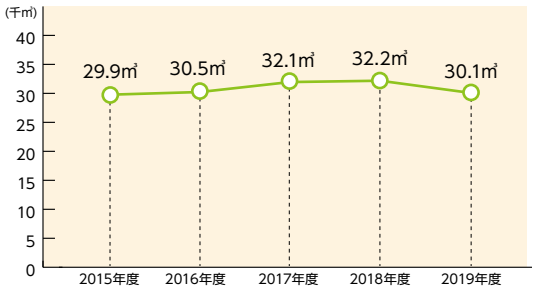
・福祉事業所では、施設利用者が増えたことにより入浴利用者も増え使用量が増加した事業所もありましたが、全体的にはお湯の温度や入浴方法を効率的に設定して削減に取り組みました。

中野中央陽だまり

水の使用量

●2019年度
前年 32.2千㎥
実績 30.1千㎥

●水使用量の推移

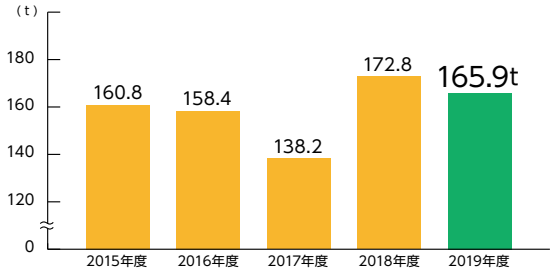


■主な使用は、車両の洗車と福祉事業所の入浴などです。
その他に、夏場のシャワー利用やエアコンの稼働効率を上げるため室外機に水をかけて冷やすという方法で電気消費量を抑える取り組みも行なっています。

足立センター
シャワー室

事業活動における資源の使用と排出の状況

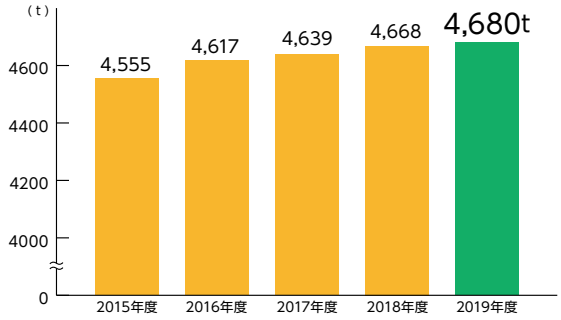
OA用紙発注量



■ 2018年12月から本部開催の会議や打合せでは、タブレット35台によるペーパーレス会議に切替えました。

ペーパーレス会議用のタブレット端末

ドライアイスの使用量



■ 足立・昭島センターに続き多摩センターでは冷凍庫内に冷凍用蓄冷剤を凍結させるスペースを設置しましたが、夏場と3月に受注が増えたことにより増加となりました。

ドライアイス納品場所

廃棄物削減の取り組み

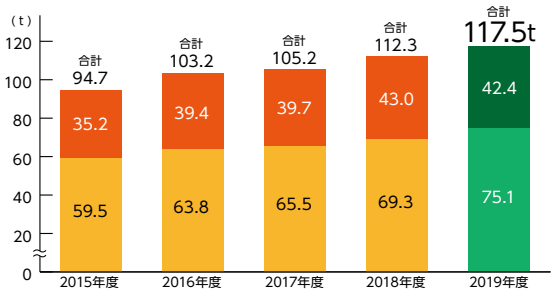
廃棄物量の推移

■2019年度実績

117,5t

■■ 産業廃棄物
■■ 一般廃棄物

「ドライアイスの包み紙」を一般廃棄物に統一したことが増加の要因です。



リサイクル食品残さ
(中野・第二中野・府中・足立陽だまり)

年度	廃棄物量
2017年	5.6t
2018年	5.8t
2019年	5.3t※

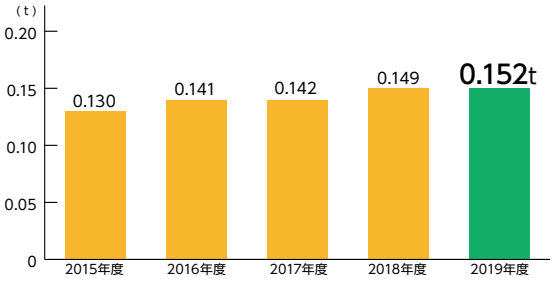
※併設の「ぱる★キッズ」とグループホームを含みます。

排出量の推移

(排出量 / 総事業高1億円)

■2019年度実績

0.152t



年度	排出量	総事業高	排出量／総事業高1億円当たり
2015年	94.7t	726億	0.130 t
2016年	103.2t	732億	0.141 t
2017年	105.2t	742億	0.142 t
2018年	112.3t	752億	0.149 t
2019年	117.5t	769億	0.152 t

■ドライアイスの包み紙
コーティングされていることによりリサイクルが困難です。リサイクルが可能な古紙取引先を模索中です。

パルシステム東京環境キャンペーンの活動一覧

2019年6月～7月（一部8月開催）

パルシステム東京では毎年6月～7月を環境キャンペーン月間として位置づけ、さまざまな取り組みを実施しています。

環境キャンペーンでは、「次の世代に渡す地球環境はどうあるべきか、一人ひとりが学び、考え、行動する」の目的に沿って環境行動を実践しました。組合員による自主的な学び合いや啓発活動などの取り組み、事業所や本部での役職員による事業推進とあわせた取り組み、それぞれが活発に行なわれました。

※テーマ表記：「地」地球温暖化防止、再エネ、脱原発、「水」水の学習会、石けん利用普及、「3」3R、有害化学物質・廃棄物削減、「生」生物多様性保全と森林保全

■委員会、組合員が主体となった活動・取り組み

No.	実施時期	テーマ	企画/取り組み	実施内容	参加数
1	6月～7月	―	委員会の環境キャンペーン企画	石けん、エネルギー、ごみ問題など	264人/19企画
2	5月下旬～	水	石けんサンプル配付	各委員会企画にて配付など活用	16,833点
3	6月6日～7日	3	NO_2測定	専用カプセルで638個を測定	511人
4	7月	水	シャボン玉月間ポスター掲示	委員会の環境企画などで掲示	―

【期間中の委員会主催企画の内訳について】
委員会が開催した環境企画は19企画（昨年度16企画）、参加者は264人（委員154人、委員外の組合員87人、子ども18人、組合員外5人）で、企画の内容は石けん11件、エネルギー問題1件、ごみ問題4件、その他3件でした。

■配送センター、福祉事業所が主体となって呼びかけた活動・取り組み

No.	実施時期	テーマ	企画/取り組み	実施内容	参加数
1	6月～7月	地	配送センターによるパルシステムでんきの推進	発電産地研修、検針票回収施策、チラシ広報、資料受付、契約推進	保有12,100件（8月末現在）
2	5月～6月	地	職員・委託会社向け「新電力各社に関する情報提供学習会」	環境推進課が新電力各社の情報収集を行ない学習会の実施	16センター／715人
3	5月～6月	地	太陽光発電＆蓄電池入門講座（三鷹センターによる広報協力）	地球温暖化防止の啓発（NPO法人太陽光発電所ネットワークとの連携）	―
4	6月2回	3	マイクロプラスチック／3Rの推進	エコ＆ピースナビゲーター掲載	―
5	6月29日	水	ぱる★キッズ府中での石けん啓発（梅シロップと梅干作り体験企画内にて）	手製パペットを用いて水の循環についてのペープサートを実施	67人
6	7月中	水	シャボン玉ポスター掲示	配送センター、福祉全事業所で掲示	―
7	7月2回	地水	パルシステムでんき／石けん利用普及	エコ＆ピースナビゲーター掲載	―

■本部主催の活動・取り組み

No.	実施時期	テーマ	企画/取り組み	講師/訪問先など	参加人数/組合員数
1	5月22日	水	今だから知っておきたい！石けん、合成洗剤、化粧品類の成分と表示	洗剤・環境科学研究所 長谷川 治氏	27人(21人)
2	5月25日	生	長野県　佐久浅間 de “佐久サク” 田植え体験（生き物調査）	産直推進課企画 JA佐久浅間、さく南部営農センター	22人(20人)
3	6月1日	3	お台場の砂浜でマイクロプラスチック採取体験！	パルシステム連合会環境活動推進室 パルシステム東京環境推進課	26人(20人)
4	6月30日	生	竹の伐採と七夕飾りづくり inいなぎめぐみの里山	認定 NPO 法人 「JUON（樹恩）NETWORK」	22人(16人)
5	7月6日	地	パルシステムでんきの発電産地交流会	（株）十文字チキンカンパニー 古舘 裕樹氏 （株）森のソーラー代表 高橋 恭嗣氏	41人(20人)
6	7月20日	地	夏休みの自由研究に！ソーラーカー工作教室＆地球温暖化講座	認定NPO法人太陽光発電所ネットワーク、パルシステム東京省エネアドバイザー	19人(13人)
7	7月20日～21日	地生	山形おきたま de 田んぼの草取り（生き物調査）とさくらんぼ収穫体験＆小水力発電所見学	産直推進課企画 山形県長井市、他　生産地	24人(22人)
8	7月25日	水	松山油脂　墨田工場見学会	松山油脂（株）墨田工場	40人(37人)
9	7月30日	生	宿題バッチリ！夏休み子ども生きモニ	中央大学協力研究員（当時） 須田　真一氏 東京大学　安川　雅紀氏	23人(19人)
10	8月3日～4日	生	中山間地域スタディツアー　～農村文化のすばらしさと棚田の生態系を学ぼう！～（棚田散策＆生き物調査など）	産直推進課企画 新潟県上越市	25人(23人)
11	8月8日	3	宿題バッチリ！足立センター＆杉戸リサイクルセンター親子バス見学会	足立センター、(株)パルシステム電力	24人(21人)
				合　計	293人(232人)

体験企画を中心に 11 企画を開催しました。うち6企画が応募者多数により抽選となりましたが、当日のキャンセルも多く、企画当日は定員を割る企画もあり今後の課題となりました。

リユース・リサイクル商品一覧

パルシステムでは、お届けしたもののうち、特定の容器・包装は毎週回収し、資源循環と廃棄物の削減に取り組んでいます。リユース・リサイクル対象商品やカタログに表示している「Rマーク」が目印です。

リユースすることが難しい商品カタログや容器包材なども、パルシステム独自の回収・リサイクルの仕組みづくりに取り組んできました。回収された資源はパルシステムのリサイクルセンターで選別・圧縮などの処理をして再生工場へ送られ、新しい商品やカタログ、再生原料などに生まれ変わります。

〈2020 年度保存版〉

リユースびん

トマトといちごの外箱

紙パック・ABパック

ヨーグルトカップ

たまごパック

「お料理セット」トレー

米袋・プラスチック袋

商品カタログ

注文用紙

2019年度環境関連広報物一覧

年間を通じて、様々な情報発信を行ないました。この他、機関紙やホームページでも広報を行ないました。

～環境キャンペーンの企画参加募集～

5月発行の組合員向け広報媒体『週刊WITH YOU』でお知らせしました。
2019年度は、前年度の白熊（地球温暖化による氷河減少）と違い、クラゲと間違ってレジ袋を食べようとしているジンベイザメ（海洋プラスチックごみ問題）をモチーフにしたチラシで訴えました。

～環境キャンペーンの取り組み参加募集～

環境キャンペーン期間中の7つの体験型企画について組合員にお知らせをしました。
体験型企画を増やした結果、多くの企画で抽選となりました。

～エコ&ピースナビゲーター～

2017年に創刊した環境活動に関する情報誌、「エコ&ピースナビゲーター」を2019年度は8回、様々なテーマで発行しました。

※片面は「平和と国際連帯」のテーマで作成しています。
　3月号は「平和と国際連帯」のテーマのみのため、本誌には掲載しておりません。

■4月号「いなぎめぐみの里山」

■6月号「マイクロプラスチック問題と 3R」

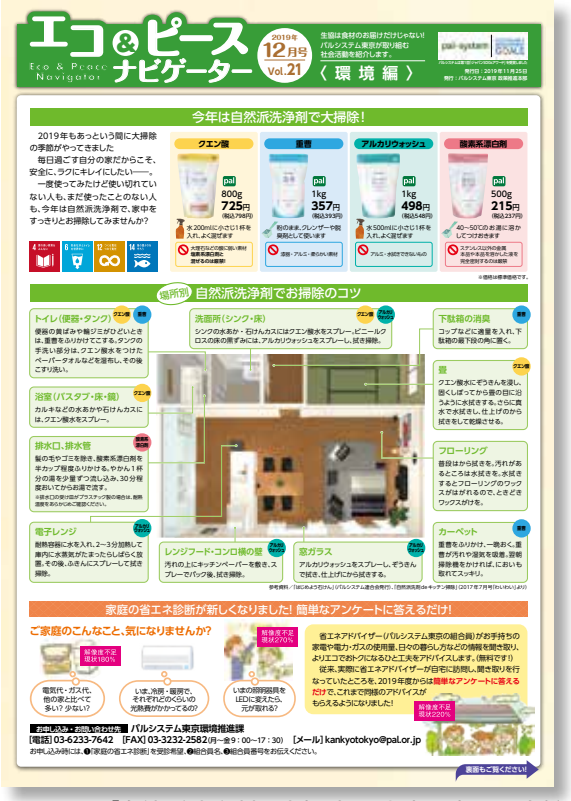
■7月号「環境キャンペーン特集号」
（表：シャボン玉月間、プラスチックごみ削減キャンペーン「エコみっけ」）

■7月号「環境キャンペーン特集号」
（裏：パルシステムでんき）

～エコ&ピースナビゲーター～

■8月号「パルシステムでんき（再掲）」

■10月号「お台場の砂浜でマイクロプラスチック採取体験、WWFジャパン連携企画」



■12月号「自然派洗浄剤で大掃除！、家庭の省エネ診断リニューアル」

■2月号「特集！生物多様性保全の取り組み」

2019年度環境活動に関する監査所見

2019年度環境監査委員長　青木　玲子
技術士（環境部門）、エコアクション21審査員

近年、国内では酷暑や台風に見舞われ、世界でも暑さやCO_2濃度の記録が更新され、生態系では陸も海も異変や種の減少が続いています。技術革新や政策連携によって、地球や地域の環境を保全する対策が急務です。

2019年は国内でのSDGs活動や再エネ普及がさらに促進されました。パルシステム東京では早い時代から、食品中の化学物質や放射能の管理を徹底し、業界に先駆けて再エネ転換への潮流も作り、私達の食や暮らしの安全、産地と消費者の双方を守り、従来から持続可能な社会構築に貢献してきたことが大変先進的であり、評価されます。

再エネの固定買取制度の終了や配電事業の規制等によって電力業界が再編されていくことが考えられますが、卒FIT家庭のPV電力の活用、家庭用蓄電地の普及、自然エネルギーで充電したEV車両による配送の実現を目指し、今後も更なる再エネ普及の牽引役となって頂くことを期待します。

環境監査委員会では、2019年度もパルシステム東京の各事業所を現地訪問し、環境マネジメントシステムによる環境目標管理、条例や法の遵法事項、廃棄物対策等の課題への対応状況を確認しました。

事業が年々拡大し繁忙を極めているにも関わらず、事業所での徹底した省エネ・省資源、ドライアイスに代わる蓄冷材や冷設機器への自然冷媒の導入拡大、フロン対策、組合員活動による環境意識啓発や政策提言までも積極的に実践され、福祉事業所では利用者への配慮と環境保全の両立に尽力されていることが大いに評価されます。

本部ではパルシステム連合会と連携し、プラ低減やパーム油使用回避のための環境配慮商品の開発が進められています。食品業界全体への取り組みに繋げていく役割も期待します。

2019年末から2020年初夏のいまも続く新型コロナウィルス対応として幅広い業種に及ぶ店舗休業や外出自粛が続く中、パルシステム東京の定期調達と配送という戸配事業は、私達の食や生活を支える、真に“命綱”の役割を担っています。また､生協の歴史的な商品である「せっけん」には驚異的な抗ウィルス作用があることも最近明らかになっています。

温暖化･放射能汚染･生態系破壊･コロナ禍という世界共通の課題は､全ての産業や人々にとっての試練です。脱原発･再エネ推進・食と住の安全を通し、環境も生活も守るというパルシステム東京の事業と、一人一人の生活のあり方に、これらの課題を克服していく力があると確信しています。

2019年度環境監査委員　坂倉　興治
東京都環境学習リーダー、環境カウンセラー

パルシステム東京では、衣食住に関する組合員活動に端を発し、近年、事業と活動がSDGsのターゲット（経済・社会・環境）にも密接な影響を保持しています。

環境監査委員会では、環境関連法規や条例の確認及び内部監査等、福祉関係では介護事業と保育事業を推進中であります。

2020年２月末時点の環境目標と目的状況について。

＜再生可能エネルギーの拡大化の取り組み＞

パルシステムでんきは目標10,000世帯に対し、実績12,328世帯となり、今後も期待できます。

＜脱原発社会の実現に取り組む＞

原発廃止とエネルギー転換への団体署名及びさようなら原発全国集会（参加者55人）等いずれも目標達成しています。

<CO_2排出総量の削減>

電気CO_2排出量目標は、1.063t → 実績：1.121t

ガスCO_2排出量目標は、0.174t → 実績：0.150tで、目標を達成しています。

<資源循環型社会を目指した活動の進め>

廃棄物量は事業所の増加があるも、目標0.162t → 実績：0.172tで微増。ドライアイス・OA用紙包み紙をリサイクル回収として着実に向上しています。

<生物多様性の保全の取り組み>

生き物モニタリングの研究者と「いなぎめぐみの里山」で活動を開始したほか、竹の伐採と道づくりを開催して目標を達成しています。

環境監査委員　佐藤　穂貴
弁護士

貴組合においては環境配慮の取り組みを長く継続され、環境監査を経るごとに事業に見合った工夫の実践が各所に認められる。近年ではたとえば、廃棄物保管場所における表示につき、異動に伴う表示の誤りの防止、外部からも連絡先がわかるようにする等の措置がなされた。また内部監査の実効性を高めるため、前後の会議や評価の平準化等について年々改善が図られている。これらはすなわち、環境マネジメントシステムの根幹であるPDCAのサイクルの運用が、組織内（特に本部）において定着していることの現れといえる。

その一方で、過去に導入した仕組みが、本来の目的のために行なわれているか、形骸化していないかの再確認が不可欠といえよう。たとえばフロン排出抑制法の改正に伴う機器点検について何をどのような基準や頻度で点検すべきなのか、また産業廃棄物が一時的に増えてしまった場合はどのように保管すべきなのか等、ルールの逸脱を予防するための適切な管理体制や、リスクへの備えが必要といえる。これは、敷地内への不法投棄といった外部要因の出来事への準備にも当てはまる。

心身の健康や生命の最重要性が再認識される時期であり、貴組合に対する社会的需要は益々高まっている。そのような状況下、環境への取り組みをなすことは組合員や社会からの信頼と評価をより一層高める。そのため、貴組合には継続的なPDCAの実施を是非期待したい。

環境監査委員　髙木　健治
パルシステム東京　組合員

パルシステムでは安全安心なサービスを提供するという理念のもと、様々な環境問題に積極的に取り組んでいます。特に、産直電力を自ら供給し、再生可能エネルギーの普及に貢献していることは賞賛に値します。他社との競争などで経営的には厳しい面もあると思いますが、粘り強く頑張って下さい。

2019年度の環境監査を通じての所見を以下に記します。

1．CO_2排出量削減について
2019年度の目標には一歩届きませんでしたが、各サイトでの取り組み姿勢には素晴らしいものがあります。他サイトの取り組みの良い点も参考にして取り組みを進化させて下さい。

2．パーム油問題について
テケンダマ社との提携などパーム油に関する取り組みは一歩前進しました。更なる進展を期待します。

3．プラスチック削減について
包材の見直しなどによりプラスチック削減で成果を上げつつあります。プラスチック削減問題は今や重大な環境問題の一つとなっており、パルシステムの出番が来たと思います。連合会と密接に連携し、数値目標をもって取り組むことが重要です。

4．遵法について
廃棄物処理に関する事項などで要改善の指摘が続いていることは残念です。各サイトの責任者は他サイトでの指摘を他山の石として改善に取り組んで下さい。

5．整理整頓について
各サイトでは量の多少はありますが不要物が散見され、資料等が不規則に置かれているところもあります。業務の効率化や労働安全衛生の面からも整理整頓が重要です。
整理：必要な物と不要な物に分け、不要な物を捨てること。
整頓：必要な物が必要なときにすぐ取り出せるようにすること。

環境問題への取り組みは単に「紙・ゴミ・電気の削減」だけでなく、パルシステムの事業活動のど真ん中にあること、そしてこれまでの活動が間違っていなかったことを全員でもう一度確認し、新たな目標に自信と誇りをもって取り組んで頂ければ幸いです。

2019年度環境監査副委員長　米川　珊
パルシステム東京　組合員

2019年12月18日と24日２日間に渡り2019年度環境監査を行ないました。皆さんが環境方針に沿って細かい要求に日々しっかりと応えられるよう活動されている事を高く評価します。各事業所での整理整頓、周辺美化の環境整備、作業時労働安全衛生への向上意識も高くなり、より良く生産性をアップさせると共に省資源、省エネルギーにも貢献している取り組みは大変素晴らしく感じました。

問題点はいくつか発見されましたが、将来大きな問題にならないよう委員会と経営陣の方々の共通認識となっています。

今年生協50周年を迎えられ、「人的資本」の大切さを最も重視している生協は次の50年より一層繁栄させ、次世代の為に引き続き優れたＰＢ商品を開発して下さるようお願いします。

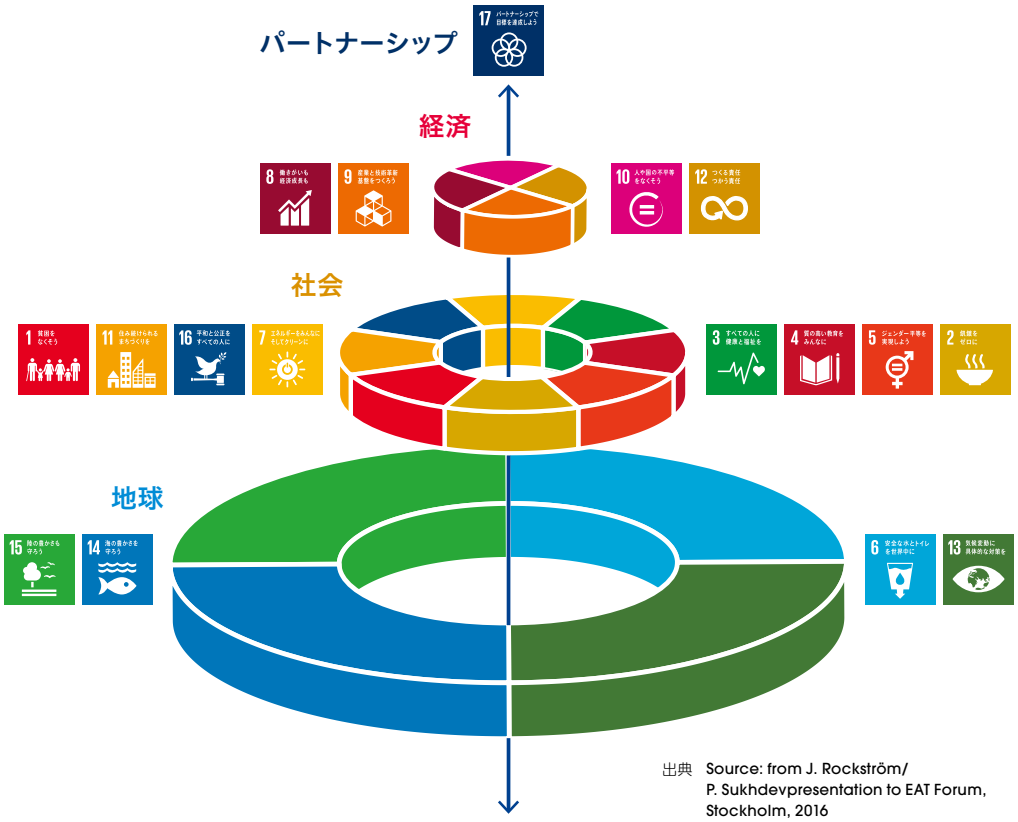
また、人類史上前例がない新型コロナ疫病が2020年に襲来。人類と全ての命の共生共栄関係を見直す機会と私は認識しています。日本国内で他の業種より一歩先んじている生協はＳＤＧs理念をより一層浸透させる善い機会だと思われます。更に、このような緊急事態でのリスク分散、危機管理対策、各方面の免疫力強化等は今後の課題となっています。

10数年間、委員として組合員の為、尽力して参りましたが、至らないことが多く、この間励まして頂いた全ての方々にこの場を借りて感謝を申し上げます。とても誇りの持てる良い想い出になりました。

環境監査委員会：環境マネジメント活動に関する諮問機関。環境管理最高責任者がパルシステム東京の環境マネジメント活動の状況を報告し、評価や改善意見、要望、提案を受け、環境マネジメント活動の一層の向上をはかることを目的として設置されている。

～SDGsと協同組合～

国連や日本政府は、協同組合を「役割を果たすべき民間セクター」「連携するステークホルダー」と位置づけ、市場原理だけで解決できない課題への社会的機能として期待しています。



出典　Source: from J. Rockström/ P. Sukhdevpresentation to EAT Forum, Stockholm, 2016

「経済」は「社会」の上に成り立ち、また「社会」は健全な「地球（環境や資源）」の上に成り立っています。
「持続可能な開発」への課題を解決するためには、経済優先の社会から一度立ち止まり、地球環境を大切にする「パートナーシップ（行政・企業・NPO 等）」との連携を目指すことが必要です。

生活協同組合パルシステム東京

発　行　生活協同組合パルシステム東京　政策・環境推進部　環境推進課
〒169-8526 東京都新宿区大久保 2-2-6 ラクアス東新宿 7F
TEL 03-6233-7642

ホームページ　パルシステム東京　検索
http://www.palsystem-tokyo.coop/

ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C111730

このカタログは環境に配慮しFSC®認証および植物油インキを使用しています。

発行日　2020 年 7 月 31 日